

「一流になりなさい。それには、一流だと思い込むことだ」という本からです

### 世の中で起こることは、すべて必然・必要・ベストだ

この船井先生の言葉を何度口にしたでしょうか。どんなに口にしていても、マイナス発想になり、その出来事を呪い、愚痴ってしまう自分を見つける瞬間があります。さまざまな心配の種が、よくもこれほどと思うほど見つかります。出張から帰り、スヤスヤとなんの心配もないように寝ている由樹を妻と眺めていると、「どうして……」と頭の中に言葉が浮かんできたものでした。「だってね、そのように生まれてきたのだから。仕方ないわよね由樹。由樹のスピードでゆっくり育ててくれるのを待つしかないわ」妻は、私以上のプラス発想人間です。もちろん私の数十倍の悩み、悲しみ、苦しみがあるはずですが。それを超えて、口にする妻に感謝していました。ニコニコとよく笑い、何かを問いかけると、「ハイ！」と元気に答えてくれるようにはなりました。しかし、一年経っても三年目を迎えても、歩けません。言葉も、片ことの単語を、一所懸命に使うのですが、会話は難しい状況です。何より食が細く、いつまでも赤ちゃんのまま。確かに誰が見ても可愛らしいのです。それが、先天性発達遅滞という障がいなのでしょう。とても、生命のか細い、はかない子のように思えてなりません。「世の中で起こることは、すべて必要、必然、ベストなんだよ。由樹君のいまも彼の魂のにとってベストだと思いなさい」何を教えてくれているのだろうか？耳を澄ましてごらん。きっといつも、語りかけているはずだよ。事あるごとに先生は、そう語り聞かせてくれました。船井先生にはじめて由樹を見てもらった日、彼は先生の膝に抱かれすっかり寝入っていました。確かに、私のなかで少しずつ何かが変化していました。「小さな変化にとっても敏感になりました。スープを一さじ飲んでくれたんです。そんなことが、とてもすごい進化だと思えます」私の言葉に先生はうなずきながら言うのです。「幸せはね、見つけられるか、見つけられないかの差だよ。いつでも、どこかにあるものなんだ」「どんなに小さなことにでも、感謝できて喜べる。それが由樹君が教えてくれている最高の幸せだと思うよ」何かにつかまって立とうとする。もう三歳で当たり前すぎるその一事が、嬉しい。小さな声なのに「パパ」と言おうとして照れながら微笑む彼に、感動する。そんな小さな幸福を感じるアンテナを確かに失っていました。何不自由なく、順風満帆で生きてきて、感謝することや有り難いという気持ちをもっていると思っただけで見失おうとしていたのだと思えました。とはいっても、なかなか歩かない姿に全国の名医や能力者を回りながら、落胆し後ろ向きになろうとする自分が、どうしてもいるのです。難しいですね……。では、あの大学の先生をご紹介します。第一人者ですから。そう言われ続ける日々が続きます。「思うのだけれど、違う大学の先生を紹介します。と言われると嬉しい。まだまだ、可能性があるのだと思えるから」ある病院の帰り道。難しいですね、その言葉に、私は少し落胆し沈んでいました。しかし妻は、そう言うのです。確かに、「もう無理です」と言われたわけではありませんでした。次はここに……。そう言われるのは、まだ可能性がある、ということなのだ気づきました。冬の黄昏。寒い夕闇の中に、家々の灯がとても温かく見えました。「よし！全国、世界中どこでも行ってやるぞ！なあ由樹！！」そのとき、船井先生の言葉をあらためて噛みしめていました。「世の中で起こることは、すべて必然・必要・ベストだ。そこから未来の種を得ればいい。大切なことは未来に思いを馳せることだ」きっと歩くぞ。そう確信してあげることだ。きっと元気に育つぞ。その未来を共有してあげる覚悟をもつことだ、とあらためて心に刻みました。

船井先生が何度か口にした言葉は何ですか？

( )

幸せは何の差と船井先生は言っていますか？

( )